

年間第23主日の説教

金 大烈 神父 2009年9月6日(日)

《エファタ、あなたの心よ開け》

おはようございます。お元気ですか？

今日の福音(マルコ7・31-37)を簡単に要約してみますと、耳が聞こえず、舌がまわらない人がイエス様の前に連れられて来ます。そして、その人を連れてきた人々は「どうか、あなたの御手をこの人の上に置いて下さい」と頼みます。イエス様の『エファタ(開け)』という言葉によって、その人は自由になって、耳が聞こえ始め、話も出来るようになったという聖書の言葉です。

この言葉を読んで、皆様と一緒に考えた方が良かった事を分かち合いたいと思います。肉体的な観点のみですと、不幸にも生まれつき耳の不自由な方も結構いらっしゃいます。そして事故などによって目が見えなくなってしまった方もいます。そして、健康に自信があると思っている人も、歳と共に視力、聴力、嗅覚も衰えて来ます。これは自然な事です。皆様は祭壇正面のご聖櫃にかかっている絵が見えますか？ぶどうの木とカリス、ご聖体が描かれているのですが、はっきり見えますか？誰も見えませんか。(笑い)

これが現実です。結局、私達の視力や聴力は衰えていきます。間違っただけで見えてしまう事もあります。間違っただけで考えてしまう事も多いのです。また、自分の頭の中で一旦「こうだ」と思いこんでしまうと、色が赤くても白く見えてしまうのが私達の眼です。耳も同じく聞き間違える場合が多いものです。

今日、イエス様が『エファタ』とおっしゃいました。その意味は『開け』です。誰にでも、条件なしに、視力や聴力が良くなる方法はありません。それは誰でも出来ます。しかし、ほとんど出来ていないのです。それは、何でしょうか。“心から見る眼”、“心から聴く耳”ではないでしょうか。今日の話聞いて私が思ったのは、耳が開いたとしても、それにはやはりこの世での限界があります。だから、もし神様が“開いて”下さるなら、「私達の心を開いて下さい」という祈りが何よりも必要ではないかという事です。

皆様、1日の中で、“心で見よう”、“心で聴こう”とする時間はどれ位あるのでしょうか。実際に私達がこの“心”によって、全ての事を見ることが出来れば、私達は今よりもっと幸せになると思います。何故なら、善い事と悪い事をわきまえるその眼が開くからです。そして正しい事と正しくない事を、嬉しい事と嬉しくない事をはっきり区別出来る耳が開くからです。今日の福音を通してもう一回考えてみましょう。出来るだけ、心で見ようと、心で聴こうとして下さい。

では、“心で見る”、“心で聴く”とはどういう意味でしょうか。簡単に言います。悲しんでいる人、困っている人を見て自分の心が動いたら、心で見て、心で聴く事になります。手を伸ばして助けを求める者がいるのにも係わらず、“誰かがやってくれるだろう、別に私でなくても”と思いながら通り過ぎてしまえば、見た事でも聞いた事でも見えなかった事になり、聞こえなかった事になります。“心の眼”、“心の耳”で見たり聴いたりすれば、今まで損だと思った事も、自分の為に本当に良かった事だと知り、いじめられて悔しくてたまらないと思った事も自分の為に良かった事だと悟れます。私達は“心”で生きれば、卑屈な卑怯な姿から解放されます。

肉体的に丈夫でも丈夫じゃなくても、それが全部ではありません。心で見よう、心で聴こうとすれば正しく見えます。正しく聞こえます。

皆様、それでは心で読む力、心で聴く力はどこから来るのでしょうか。簡単です。祈って下さい。祈りがなければ、私達信仰者も社会的な雰囲気流されます。「“正しい眼”を下さい。“正しい耳”を下さい。」と祈って下さい。自分が今、傲慢に陥っているか、がっかりしているか、生きる姿勢が正しいかどうか、その“眼”を通して、“耳”を通して解ると思います。

皆様、祈って下さい。私達の一番強い武器は“祈り”しかありません。神父も祈らなければ神父の務めを果たせません。修道者も心で祈ることが出来なければ、修道生活の意味を失います。信徒も祈らなければ信徒と言えません。祈って下さい。私達があらゆる難しさに直面しても乗り越えられる、克服するように眼が開き、耳が聞こえる様になると信じます。

皆様、何よりも周りの人々を見て下さい。今でも皆様の助けを求める人がいるかも知れません。その時、正しい眼で見ている人なら、「私が助けてあげよう」という心より、「分かち合おう」という心が生じると思います。施しや助けは神様の役目です。私達は私達が頂いたものを分かち合うだけです。心で見て、心で聴きましょう。

ありがとうございました。